

データ転送ソフト 「DATAメモリーシステム SDM9」編

転送ソフト「DATAメモリーシステム SDM9」を利用して「テブラ」PRO本体のデータをパソコンでやりとりする方法について説明しています。使用の際に参考にしてください。

●転送ソフトの特長

転送ソフト「DATAメモリーシステム SDM9」Ver.3.6は、「テブラ」PRO本体で作成したファイルデータやあて名データ、名前データ、外字データをパソコンに転送し、1つのファイルとして保存することができます。

■ 「テブラ」PRO本体のデータをパソコンで保存できます

● 安心のデータバックアップとして

「テブラ」PRO本体のデータをパソコンに保存しておけば、「テブラ」PRO本体のデータが消失した場合も安心です。

● 共用時のデータ入れ換え

「テブラ」PRO本体を共用しているときなど、個人ごとのデータをパソコンに保存し、使うときだけ「テブラ」PRO本体に戻せば、データを他の人に見られる心配がありません。

● 他の「テブラ」PRO本体での共用

パソコンに保存してあるデータを他の「テブラ」PRO本体に転送すれば、同じデータを共用することができます。また、Eメールなどで送信して、別の部署でデータを共用することも可能です。

■ 「テブラ」PRO本体で作成したあて名、名前データは パソコンでも利用できます

「テブラ」PRO本体で作成したあて名、名前データを「XLS形式」、「XLSX形式」、「CSV形式」などに変換することができます。また、「XLS形式」、「XLSX形式」、「CSV形式」などで作成したあて名や名前用のファイルを「テブラ」PRO本体で利用できるように変換することもできます。

■ 外字がパソコンで編集できます

「テブラ」PRO本体で作成した外字をパソコン上で編集するだけでなく、新たに外字を作成して「テブラ」PRO本体に転送することができます。描画方法はマウスを使うだけなので、とても簡単に作成できます。

!! 注意 !!

- 「テブラ」PRO本体の取扱説明書では、作成したラベルのデータを「ファイル」と呼んでいますが、本書ではパソコンのファイルと区別するため、「データ」と呼んでいます。
- パソコンに接続できない「テブラ」PRO本体は「DATAメモリーシステム SDM9」を利用できません。
- 「DATAメモリーシステム SDM9」は、パソコンに「テブラ」PRO本体を複数接続した状態では通信できません。パソコンに接続する「テブラ」PRO本体は1台にしてご使用ください。
- 複数の「テブラ」PROで利用する場合、同じ機種ではデータの共用ができますが、異なる機種間では共用できない、あるいはデータが使えないことがあります。
- 「DATAメモリーシステム SDM9」は、共有設定されたネットワークプリンタ上の「テブラ」PRO本体には接続できません。

SR3900P、SR3700P、SR3500Pをお使いの方へ：

上記「テブラ」PRO本体では「DATAメモリーシステム SDM9」Ver.3.6を利用できません。

SR900、SR910、SR710、SR610X、SR510をお使いの方へ：

上記「テブラ」PRO本体では「DATAメモリーシステム SDM9」Ver.3.6を利用できません。「DATAメモリーシステム SDM9」（Ver.1.0、Ver.2.0～2.3）をご使用ください。

SR6700Dをお使いの方へ：

上記「テブラ」PRO本体では「DATAメモリーシステム SDM9」Ver.3.6を利用できません。「DATAメモリーシステム SDD6」をご使用ください。

●転送ソフトの起動～終了

起動する

- ① パソコンと「テブラ」PRO本体を接続し、電源ボタン、次に[パソコンリンク]または[PCリンク]ボタンを押してパソコンリンク状態にする
「テブラ」PROのディスプレイに「パソコン通信可能」または「PC通信可能」が点滅します。
- ② 転送ソフト「DATAメモリーシステムSDM9」Ver.3.6を起動する
デスクトップの[DATAメモリーシステムSDM9 3.6]アイコンをダブルクリックします。

① ダブルクリック

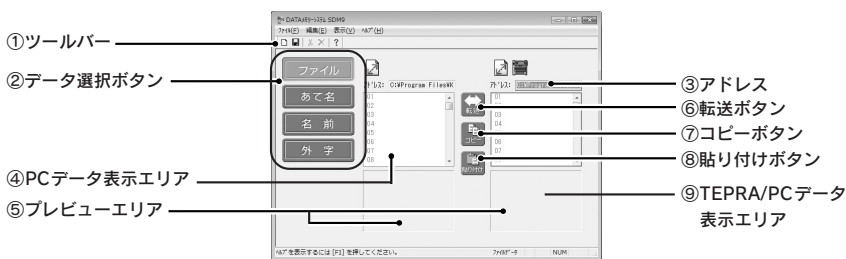


MEMO

- ・起動するには、あらかじめ「DATAメモリーシステムSDM9」Ver3.6と接続する「テブラ」PRO本体のプリンタドライバをインストールしておく必要があります。
- ・デスクトップにアイコンがない場合は、[スタート]をクリックし、[すべてのプログラム]－[TEPRA PRO]－[DATAメモリーシステムSDM9 3.6]－[DATAメモリーシステムSDM9 3.6]をクリックして起動します（Windows 8は、[スタート]画面に作成された[DATAメモリーシステムSDM9 3.6]タイルをクリックします）。

③ データ選択ボタンから転送するデータをクリックする


選択したボタンに応じてデータ転送画面が変わります。



(ファイルデータを選択した場合)


- ① ツールバー : 新規作成、上書き保存、切り取り、削除など、データを操作するボタンです。
- ② データ選択ボタン : 表示するデータを選択します。
- ③ アドレス : データの保存場所を表示します。
- ④ PCデータ表示エリア : パソコンに保存されているファイル(D9B形式)のデータが一覧で表示されます。選択されているときは赤い枠が表示されます。
- ⑤ プレビューエリア : 選択されているデータの内容(一部)を表示します。
- ⑥ 転送ボタン : 選択されているデータを、転送先の同じデータ番号に転送します。
- ⑦ コピーボタン : 選択されているデータをクリップボードにコピーします。
- ⑧ 貼り付けボタン : クリップボードにコピーされたデータを好きなデータ番号に貼り付けることができます。
- ⑨ TEPRA/PCデータ表示エリア : 接続している「テブラ」PRO本体またはパソコンのデータが一覧で表示されます。選択されているときは赤い枠が表示されます。

「テプラ」PRO本体のデータを表示する

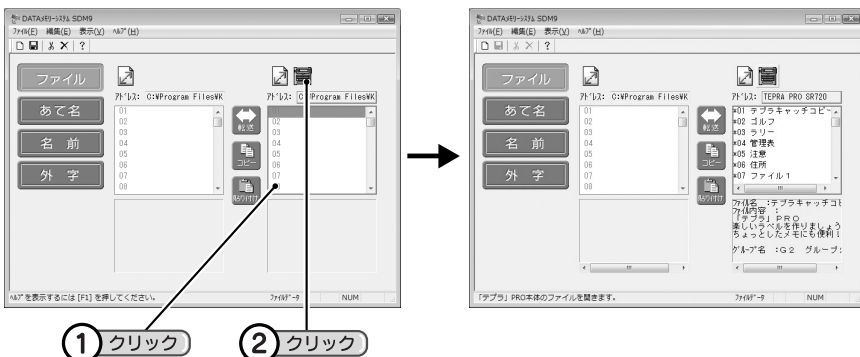
「テプラ」PRO本体のファイルを読み込むときは、 (「テプラ」PRO本体ファイル読み込み)をクリックします。

- ① データ選択ボタンをクリックする
表示したいデータを選択します。



- ② 右側のTEPRA/PCデータ表示エリアをクリックして、 (「テプラ」PRO本体ファイル読み込み)をクリックする

選択した表示エリアに赤い枠が表示され、「テプラ」PRO本体のデータ番号とファイル名またはデータの一部分が一覧で表示されます。



MEMO

- 「テプラ」PRO本体と通信をおこなうときは、「テプラ」PRO本体とパソコンがUSBケーブルで接続されていること、「テプラ」PRO本体のディスプレイに「パソコン通信可能」または「PC通信可能」が点滅していることを確認してください。
- 「テプラ」PRO本体と通信中のとき、パソコン画面上に「「テプラ」PRO本体と通信中です。しばらくお待ちください」と表示されます。
- 通信中は、他のアプリケーションを動作・起動させないでください。
- 手順②でファイル読み込みを実行すると、手順①で選択したデータのみ「テプラ」PRO本体から読み込まれます。他のデータを読み込みたい場合は、手順①から操作しなおしてください。

!! 注意 !!

パソコンに「テプラ」PRO本体を複数台接続した状態では通信をおこなうことはできません。通信をおこなう「テプラ」PRO本体1台のみ接続してください。また、共有設定されたネットワークプリンタ上の「テプラ」PRO本体には接続できません。

③ データをクリックする

プレビューエリアに選択しているデータの内容が表示されます。

① クリック



プレビューエリアにデータ
の内容が表示されます



MEMO

- データが保存されている番号には「*」がつきます。
- 記号や特殊文字は「■」で表示されます。また、文字モード指定マークは表示されません。
- プレビューエリアに表示しきれない内容は省略されます。

パソコンのデータを表示する

すでに作成したSDM9ファイル(D9B形式)を開くときは  (PCファイル読み込み) を、新しいSDM9ファイルを作成するときは  (新規作成) をクリックします。

SDM9ファイル(D9B形式)を開く


① データ選択ボタンをクリックする

表示したいデータを選択します。

① クリック



② 表示させたい表示エリアをクリックして、

 (PCファイル読み込み) をクリックする
選択した表示エリアには赤い枠が表示されます。
そのあと、[開く] 画面が表示されます。

② クリック

① クリック

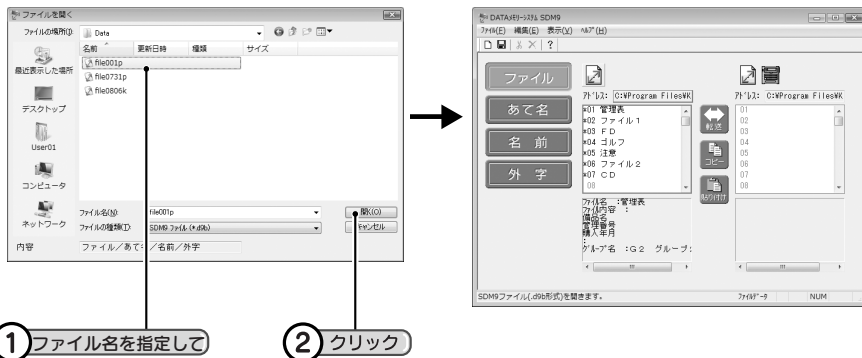


次へ進みます



③ ファイルを指定して「開く」をクリックする

「開く」画面にファイルがない場合は、「ファイルの場所」の▼や↑などをクリックして、保存場所を表示させます。ファイルが開くと、表示エリアにデータ番号とファイル名またはデータの一部分が一覧で表示されます。



MEMO

- 「DATAメモリーシステム SDM9」Ver.3.6では、「SDM9ファイル(D9B形式)」以外のファイルは開けません。
- 「開く」画面でファイルを選択すると、画面下部に「内容」が表示され、保存されているデータ(ファイル、あて名、名前、外字)を確認することができます。
- ファイルを指定して「開く」をクリックすると、SDM9ファイルにあるすべてのデータ(ファイル、あて名、名前、外字)を開きます。開いたあとに、データ選択ボタンをクリックすると、それぞれのデータが一覧で表示されます。

④ データをクリックする

プレビューエリアに選択しているデータの内容が表示されます。



MEMO

- データが保存されている番号には「*」がつきます。
- 記号や特殊文字は「■」で表示されます。また、文字モード指定マークは表示されません。
- 定型外国語は表示されません。
- プレビューエリアに表示しきれない内容は省略されます。

新しいSDM9ファイルを作成する

作業しているファイルを終了し、新しいSDM9ファイルを作成するときは（新規作成）をクリックします。

- 1 表示させたい表示エリアをクリックして、（新規作成）をクリックする
新しいSDM9ファイルが表示されます。



2 クリック

1 クリック




- 2 データ選択ボタンをクリックする

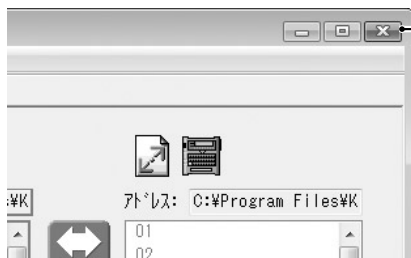
表示したいデータを選択します。

MEMO

- ・ 作業しているファイルを終了し、新しいSDM9ファイルを作成したとき、更新確認のメッセージが表示されることがあります。
- ・ 転送ソフト起動直後に新しいSDM9ファイルを作成するときは、この操作は必要ありません（すでに新しいSDM9ファイルが開かれた状態になっています）。

終了する

- 1 画面右上のをクリックする
そのままウィンドウが閉じます。



1 クリック

MEMO

SDM9の終了は、[ファイル] - [終了] を選択しても実行できます。

●データを転送する

「テプラ」PRO本体のデータをパソコンに転送する

ここでは、ファイルデータを転送する画面を例に説明していますが、あて名データ、名前データ、外字データも基本的に同じ操作となります。

- 1 データ選択ボタンをクリックする
転送したいデータを選択します。

1 クリック



- 2 右側のTEPRA/PCデータ表示エリアに、転送元となる「テプラ」PRO本体のデータを表示させる
参照 P.4 「「テプラ」PRO本体のデータを表示する」

MEMO

右側のTEPRA/PCデータ表示エリアにもSDM9ファイル(D9B形式)を開くことができます。左右の表示エリアに別々のSDM9ファイルを開けば、SDM9ファイル間でデータを転送することができます。

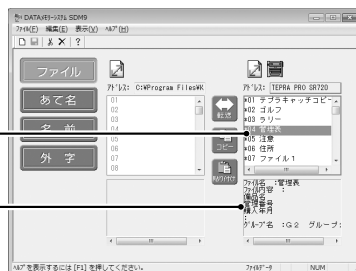


- 3 左側のPCデータ表示エリアに、転送先となるファイルを開く
参照 P.5 「パソコンのデータを表示する」

- 4 転送したいデータをクリックして選択する
プレビューエリアに選択しているデータの内容が表示されます。

1 クリック

プレビューエリアにデータ
の内容が表示されます



MEMO

複数のデータを選択するときは、キーボードの<Ctrl>を押しながら1行ずつクリックします。
また、最初の候補をクリックして選択したあと、最後の候補を<Shift>を押しながらクリックすると最初～最後の候補までのすべての行を選択できます。

[編集] — [全てを選択] を選択するか、<Ctrl>を押しながら<A>を押すと、全データを選択できます。

5 (転送)をクリックする

転送確認のメッセージが表示されます。

1 クリック

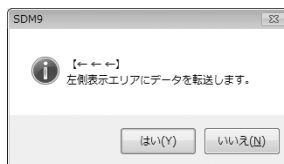
MEMO

すべてのデータを転送するときは、メニューバーの[編集]－[全転送]をクリックすると、一度に転送できるので便利です。



6 転送方向を確認し、[はい]をクリックする

転送元と同じ番号にデータが転送されます。
転送先にデータがある場合は、上書き確認のメッセージが表示され、[はい]をクリックすると上書きされます。



7 左側のPCデータ表示エリアをクリックして

(上書き保存)をクリックする

現在のファイル名で上書き保存されます。
別名で保存するときは[ファイル]－[名前を付けて保存]を選択し、保存画面でファイル名を入力します。

2 クリック

1 クリック



MEMO

- データを転送しても転送元のデータは残ります。
- 名前データは上書き転送できません。転送先のデータを削除してから転送するか、空いている番号にコピーしてください。
- SDM9 ファイル(D9B形式)は、1つのファイルで4つのデータ(ファイル、あて名、名前、外字)を管理できます。
- データ表示エリアに表示された「外字データ」は、パソコン上で編集することができます。
参照 図P.22 「外字の編集」
- データを異なる番号へ転送したい場合は「コピー・貼り付け」機能を利用してください。
参照 図P.12 「データをコピーする・移動する」
- SDM9 ファイル(D9B形式)に保存できる最大データ数は、ファイル100件、あて名100件、名前40件、外字20件です。ただし、機種により転送できるデータ数は異なります。お使いの機種の取扱説明書で確認してください。
- SR520は名前データには対応していません。
- 登録したデータが多いと転送に時間がかかることがあります。

パソコンにあるデータを「テプラ」PRO本体に転送する

- 1 データ選択ボタンをクリックする
転送したいデータを選択します。

① クリック



- 2 左側のPCデータ表示エリアに、転送元となるファイルを開く
参照 P.5 「パソコンのデータを表示する」

MEMO

右側のTEPRA/PCデータ表示エリアにもSDM9ファイル(D9B形式)を開くことができます。左右の表示エリアに別々のSDM9ファイルを開けば、SDM9ファイル間でデータを転送することができます。



- 3 右側のTEPRA/PCデータ表示エリアに、転送先となる「テプラ」PRO本体のデータを表示させる
参照 P.4 「「テプラ」PRO本体のデータを表示する」

- 4 転送したいデータをクリックして選択する
プレビューエリアに選択しているデータの内容が表示されます。

① クリック

プレビューエリアにデータ
の内容が表示されます



MEMO

複数のデータを選択するときは、キーボードの<Ctrl>を押しながら1行ずつクリックします。
また、最初の候補をクリックして選択したあと、最後の候補を<Shift>を押しながらクリックすると最初～最後の候補までのすべての行を選択できます。

[編集] — [全てを選択] を選択するか、<Ctrl>を押しながら<A>を押すと、全データを選択できます。

5 (転送)をクリックする

転送確認のメッセージが表示されます。

1 クリック

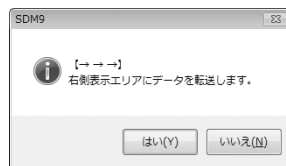
MEMO

すべてのデータを転送するときは、メニューバーの[編集]—[全転送]をクリックすると、一度に転送できるので便利です。



6 転送方向を確認し、[はい]をクリックする

転送元と同じ番号にデータが転送されます。
転送先にデータがある場合は、上書き確認のメッセージが表示され、[はい]をクリックすると上書きされます。



MEMO

- データを転送しても転送元のデータは残ります。
- 「テブラ」PRO本体で作成した文章内に外字を使用したとき、その外字データをSDM9ファイルに転送し、移動や変更・削除などをおこなうと、「テブラ」PRO本体に転送しなおしたとき、その文章の外字が空白や異なる外字で表示されます。
- データを異なる番号へ転送したい場合は「コピー・貼り付け」機能を利用してください。
参照 P.12 「データをコピーする・移動する」

!! 注意 !!

- 「テブラ」PRO本体へデータを転送する場合は、転送した時点で「テブラ」PRO本体のファイルに書き込まれます。上書き実行後は、元データの復元はできませんので、充分に確認してください。
- 名前データは上書き転送できません。転送先のデータを削除してから転送するか、空いている番号にコピーしてください。
- 「テブラ」PRO本体にデータを転送するとき、データ量によって時間がかかる場合があります。
- SDM9ファイル(D9B形式)に保存できる最大データ数は、ファイル100件、あて名100件、名前40件、外字20件です。
- SDM9ファイル(D9B形式)に保存されている各データが「テブラ」PRO本体で登録できるデータ数より多い場合、「テブラ」PRO本体で登録できるデータ数を越えている部分はカットされます。

●データをコピーする・移動する

データを異なる番号へ転送したい場合は、「コピー・貼り付け」機能や「切り取り・貼り付け」機能を利用します。

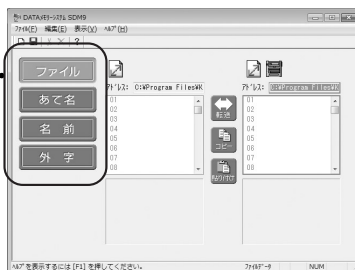
ここでは、ファイルデータでの操作を例に説明していますが、あて名データ、名前データ、外字データも基本的に同じ操作となります。

コピーする

1 データ選択ボタンをクリックする

転送したいデータを選択します。

① クリック



2 右側のTEPRA/PCデータ表示エリアに、コピー元となる「テブラ」PRO本体のデータを表示させる 参照 P.4 「テブラ」PRO本体のデータを表示する

MEMO

右側のTEPRA/PCデータ表示エリアにもSDM9ファイル(D9B形式)を開くことができます。左右の表示エリアに別々のSDM9ファイルを開けば、SDM9ファイル間でデータを転送することができます。



3 左側のPCデータ表示エリアに、コピー先となるファイルを開く 参照 P.5 「パソコンのデータを表示する」

4 コピーしたいデータをクリックして選択する プレビューエリアに選択しているデータの内容が表示されます。

① クリック

プレビューエリアにデータ
の内容が表示されます



MEMO

複数のデータを選択するときは、キーボードの<Ctrl>を押しながら1行ずつクリックします。
また、最初の候補をクリックして選択したあと、最後の候補を<Shift>を押しながらクリックすると最初～最後の候補までのすべての行を選択できます。

[編集] — [全てを選択] を選択するか、<Ctrl>を押しながら<A>を押すと、全データを選択できます。

5 (コピー)をクリックする

4で選択したデータがクリップボードにコピーされます。

1 クリック



6 コピー先のデータ番号を選択し、(貼り付け)をクリックする

貼り付け確認のメッセージが表示され、[はい]をクリックすると、選択したデータ番号にコピーした内容が上書きされます。

コピー先にデータがある場合は、上書き確認のメッセージが表示され、[はい]をクリックすると上書きされます。

1 クリック

2 クリック



MEMO

- 複数のデータをコピーしたときは、選択したコピー先データ番号を先頭に、連続して貼り付きます。コピー元を飛び飛びに選択した場合は、間隔をつめて連続で貼り付きます。
- 名前データは上書きできません。空いている番号にコピーしてください。

7 コピー先のファイルを保存する

(上書き保存)をクリックすると、現在のファイル名で上書き保存されます。

別名で保存するときは [ファイル] - [名前を付けて保存] を選択し、保存画面でファイル名を入力します。

!! 注意 !!

「テプラ」PRO本体にデータをコピーする場合は、コピーした時点で「テプラ」PRO本体のファイルに書き込まれます。上書き実行後は、元データの復元はできませんので、充分に確認してください。

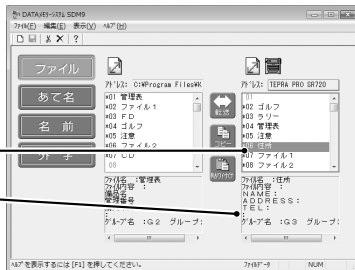
移動する

- 1** 移動したいデータをクリックして選択する
「コピーする」の手順**1**～**4**の操作で移動したいデータを選択します。

参照 P.12 「コピーする」

1 クリック

プレビューエリアにデータの内容が表示されます。



MEMO

複数のデータを選択するときは、キーボードの<Ctrl>を押しながら1行ずつクリックします。
また、最初の候補をクリックして選択したあと、最後の候補を<Shift>を押しながらクリックすると最初～最後の候補までのすべての行を選択できます。
[編集] — [全てを選択] を選択するか、<Ctrl>を押しながら<A>を押すと、全データを選択できます。

- 2** (切り取り) をクリックする

1 で選択したデータがクリップボードにコピーされます。

1 クリック



- 3** 移動先のデータ番号を選択し、 (貼り付け) をクリックする

貼り付け確認のメッセージが表示され、[はい]をクリックすると、選択したデータ番号にコピーした内容が貼り付きます。移動元のデータは削除されます。
移動先にデータがある場合は、上書き確認のメッセージが表示され、[はい]をクリックすると上書きされます。

1 クリック

2 クリック



MEMO

複数のデータを移動したときは、選択した移動先データ番号を先頭に、連続して貼り付きます。
移動元を飛び飛びに選択した場合は、間隔をつめて連続で貼り付きます。

- 4** 移動先のファイルを保存する

(上書き保存) をクリックすると、現在のファイル名で上書き保存されます。別名で保存するときは [ファイル] — [名前を付けて保存] を選択し、保存画面でファイル名を入力します。

!! 注意 !!

「テプラ」PRO本体にデータを移動する場合は、移動した時点で「テプラ」PRO本体のファイルに書き込まれます。上書き実行後は、元データの復元はできませんので、十分に確認してください。

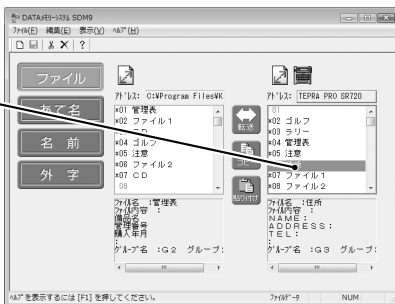
削除する

1 削除したいデータをクリックして選択する

MEMO

複数のデータを選択するときは、キーボードの<Ctrl>を押しながら1行ずつクリックします。
また、最初の候補をクリックして選択したあと、最後の候補を<Shift>を押しながらクリックすると最初～最後の候補までのすべての行を選択できます。
[編集] — [全てを選択] を選択するか、<Ctrl>を押しながら<A>を押すと、全データを選択できます。

1 クリック



2 (削除) をクリックする

削除確認のメッセージが表示されます。

MEMO

キーボードの<Delete>を押しても削除できます。

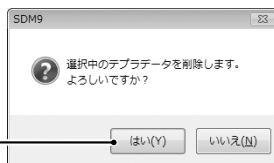
1 クリック



3 [はい] をクリックする

データが削除されます。

1 クリック



4 ファイルを保存する

(上書き保存) をクリックすると、現在のファイル名で上書き保存されます。

別名で保存するときは [ファイル] — [名前を付けて保存] を選択し、保存画面でファイル名を入力します。

!! 注意 !!

- データ表示エリアに読み込んだ「テブラ」PRO本体のデータを削除する場合、削除実行後は元データの復元はできませんので、十分に確認してください。
- データ表示エリアに読み込んだ「テブラ」PRO本体のデータを削除するとき、データ量によって時間がかかる場合があります。

●あて名・名前データをパソコンとやりとりする

「XLS形式」、「XLSX形式」、「CSV形式」などで作成したあて名や名前用のファイルを「テブラ」PRO本体で利用できるように、変換することができます。

また、「テブラ」PRO本体で作成したあて名や名前データを「XLS形式」、「XLSX形式」、「CSV形式」などに変換することもできます。

パソコンであて名・名前用ファイルを作成するときの注意

あて名や名前用のファイルを「XLS形式」、「XLSX形式」、「CSV形式」で作成する場合は、「テブラ」PRO本体のあて名や名前の登録項目と同じ順序、同じ制限文字数で作成する必要があります。

パソコンであて名用ファイルを作成する

パソコンであて名用ファイルを作成する場合、以下の項目を入力します。

(列番号)	A	B	C	D	E	F	G
項目	郵便番号	住所1	住所2	会社	部署	氏名	カスタマバースコード
文字数の制限	8文字	20文字	20文字	20文字	20文字	20文字	20文字

実際に作成する場合は以下の通りになります。

●「XLS形式」、「XLSX形式」で作成する場合

あて名 [互換モード] - Microsoft Excel

ホーム 挿入 ページ レイアウト 数式 データ 校閲 表示 アドイン

A2

101-0031

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	郵便番号	住所1	住所2	会社	部署	氏名	カスタマバースコード	
2	101-0031	東京都千代田区千代田	東神田2丁目	株式会社千代田開発本部	山田 太郎	10100312-10-18		
3	123-0045	北海道千代田市	紅葉山1丁目	DAデザイン株式会社	清浦 健造	123004512-1		
4	273-0145	千葉県鎌倉市	郵便・A&bコーポ	B604号	佐藤 宏	27301023-20-5		
5	123-4567	北海道室蘭市	アサカマンション	214号	喜多野 大	12345672-214		

2行目からデータを入力します

1行目にタイトルを入力する必要があります

●「CSV形式」で作成する場合

あて名 - Microsoft Excel								
ホーム 挿入 ページ レイアウト 数式 データ 校閲 表示 アドイン								
A1 101-0031								
	A	B	C	D	E	F	G	H
1	101-0031	東京都千代田区千代田	東神田2丁目	株式会社千代田開発本部	山田 太郎	10100312-10-18		
2	123-0045	北海道夕張市紅葉山12-DA	デザイン株式会社	清浦 健造	123004512-1			
3	273-0145	千葉県鎌倉市郵便・A&b	コーポB604号	佐藤 宏	27301023-20-5			
4	123-4567	北海道室蘭市アサカマンション	214号	喜多野 大	12345672-214			
5								

1行目からデータを入力します

パソコンで名前用ファイルを作成する

パソコンで名前用ファイルを作成する場合、以下の項目を入力します。

(列番号)	A	B	C	D
項目	氏(漢字)	名(漢字)	氏(読み)	名(読み)
文字数の制限	7文字	7文字	7文字	7文字

実際に作成する場合は以下の通りになります。

●「XLS形式」、「XLSX形式」で作成する場合

	A	B	C	D	E
1	氏(漢字)	名(漢字)	氏(読み)	名(読み)	
2	佐藤	さおり	さとう	さおり	
3	平川	龍太	ひらかわ	りゅうた	
4	斉藤	誠	さいとう	まこと	
5	山田	太郎	やまだ	たろう	

2行目からデータを入力します

1行目にタイトルを入力する
必要があります

●「CSV形式」で作成する場合

	A	B	C	D	E
1	佐藤	さおり	さとう	さおり	
2	平川	龍太	ひらかわ	りゅうた	
3	斉藤	誠	さいとう	まこと	
4	山田	太郎	やまだ	たろう	

1行目からデータを入力します

!! 注意 !!

- 利用できるデータは「XLS形式(Excelで作成したデータ)」、「XLSX形式(Excel2007/2010で作成したデータ)」、「CSV形式(カンマ区切りのテキスト)」、「TXT形式」のファイルです。
- 「XLS形式」、「XLSX形式」のデータを読み込むには、各ファイル形式に対応したMicrosoft® Excelがインストールされている必要があります。
- 半角数字は全角数字に変換されます。「テブラ」PRO本体が対応していない記号や漢字の一部は「■」で登録されます。また、あて名・名前データに書体などは反映されません。
- 郵便番号はハイフン(ー)を含む数字8文字のデータ以外、正しく読み込まれない場合があります。
- Excelでデータを作成する場合は、以下の点に注意してください。
 - 対応しているExcelのバージョンは、Microsoft® Excel5.0/7.0/95/97/2000/2002/2003/2007/2010です。
 - 1行目にはタイトル名が必要です。あて名の場合、1行目には「A1～G1」までのセルにタイトル名を入力してください。名前の場合、1行目には「A1～D1」までのセルにタイトル名を入力してください。タイトル名がついていないと、データが入力されていても正しく読み込まれません。
 - データは2行目から認識します。1行目のタイトル名は、列認識のために使用され、あて名データや名前データには読み込まれません。
 - 読み込めるデータは、あて名では列数が7列、行数が最大101行(1行目のタイトル名を含む)、名前では列数が4列、行数が最大41行(1行目のタイトル名を含む)です。
 - シート名、列のタイトルの1文字目にスペースは使用できません。
 - Excelの表示形式で指定した日付や通貨表示等は読み込まれません。
 - 数値データは、桁数が多いと指数表示や異なる値で読み込まれる場合があります。Excelでセルの表示形式を「文字列」として入力したデータをお使いください。
 - Excelドライバの仕様により、特定のコードを列タイトルに含むデータの保存もしくは読み込みでエラーになる場合があります。

パソコンで作成したあて名・名前用ファイルを「テプラ」PRO本体で利用できる形式に変換する

パソコンで作成したあて名データや名前データをSDM9に表示して、「テプラ」PRO本体で利用できる形式に変換します。

ここでは、あて名データでの操作を例に説明していますが、名前データも基本的に同じ操作となります。

① データ選択ボタンをクリックする

「あて名」または「名前」を選択します。

① クリック



② 左側のPCデータ表示エリアをクリックして、「[ファイル] - [あて名データ読み込み]」をクリックする

「あて名データ読み込み」画面が表示されます。


① クリック



MEMO

名前データの場合は、ここで「[ファイル] - [名前データ読み込み]」をクリックします。

③ ファイルを指定して「開く」をクリックする

「開く」画面にファイルがない場合は、「ファイルの場所」の▼やなどをクリックして、保存場所を表示させます。

目的のファイルを選択して「開く」をクリックします。

「CSV形式」の場合は、ファイルが開きます(手順⑤へ進みます)。

「XLS形式」、「XLSX形式」の場合は、「シートの選択」画面が表示されます(手順④へ進みます)。



① ファイル名を指定して

② クリック

④ Excelファイルの場合は、シート名を選択し、[OK] をクリックする

「CSV形式」の場合はこの手順は不要です。

ファイルが開くと、PCデータ表示エリアにデータが表示されます。



① 選択して ② クリック



⑤ 右側のTEPRA/PCデータ表示エリアに、転送先となる「テブラ」PRO本体のデータを表示させる 参照 P.4「「テブラ」PRO本体のデータを表示する」

MEMO

右側のTEPRA/PCデータ表示エリアにもSDM9ファイル(D9B形式)を開くことができます。左右の表示エリアに別々のSDM9ファイルを開けば、SDM9ファイル間でデータを転送することができます。



⑥ データを「テブラ」PRO本体に転送する

以降は、データの転送機能やコピー機能を利用して、データをTEPRA/PCデータ表示エリアに転送します。

参照 P.10「パソコンにあるデータを「テブラ」PRO本体に転送する」

参照 P.12「データをコピーする・移動する」

MEMO

- 名前データは上書きできません。空いている番号にコピーしてください。
- パソコンで作成したデータを「テブラ」PRO本体で利用するときは、「テブラ」PRO本体の内蔵書体に指定されます。

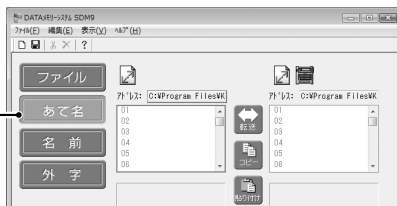
「テプラ」PRO本体で作成したあて名・名前データをパソコンで利用できる形式に変換する

SDM9に表示した「テプラ」PRO本体のあて名や名前データを、パソコンで利用できる形式のファイル(「XLS形式」、「XLSX形式」、「CSV形式」)などに変換します。

ここでは、あて名データでの操作を例に説明していますが、名前データも基本的に同じ操作となります。

- 1 データ選択ボタンをクリックする
「あて名」または「名前」を選択します。

① クリック






- 2 右側のTEPRA/PCデータ表示エリアに、転送元となる「テプラ」PRO本体のデータを表示させる
参照 P.4「「テプラ」PRO本体のデータを表示する」

MEMO

右側のTEPRA/PCデータ表示エリアにもSDM9ファイル(D9B形式)を開くことができます。左右の表示エリアに別々のSDM9ファイルを開けば、SDM9ファイル間でデータを転送することができます。



- 3 左側のPCデータ表示エリアに、転送先となるファイルを開く
参照 P.5「パソコンのデータを表示する」

- 4 変換したいデータを選択し、 (転送)  (コピー)  (貼り付け) などを利用してPCデータ表示エリアに転送する
参照 P.8「「テプラ」PRO本体のデータをパソコンに転送する」
参照 P.12「データをコピーする・移動する」

MEMO

「テプラ」PRO本体のデータをパソコンで利用できる形式に変換するには、一度SDM9ファイル(D9B形式)に変換する必要があります。SDM9ファイル(D9B形式)の場合は、この手順は不要です。

⑤ 左側のPCデータ表示エリアをクリックして 「ファイル」－「あて名データ保存」をクリックする

「あて名データ保存」画面が表示されます。

② クリック

③ クリック

① クリック



MEMO

名前データの場合は、ここで「ファイル」－「名前データ保存」をクリックします。

⑥ ファイル名を入力して「保存」をクリックする

「ファイルの種類」でファイルの保存形式を「XLS形式(Excelデータ)」、「XLSX形式(Excel2007/2010データ)」、「CSV形式(カンマ区切りのテキスト)」、「TXT形式」から選択できます。

① ファイル名を入力して

② クリック



!! 注意 !!

「XLS形式」、「XLSX形式」、「CSV形式」、「TXT形式」で保存すると、あて名・名前データのグループ情報は削除されます。

MEMO

- 既存のファイル名を指定した場合、ファイルそのものが上書きされます。
- 「XLS形式」、「XLSX形式」で保存すると、1行目には以下の項目名が表示されます。
あて名：「郵便番号」、「住所1」、「住所2」、「会社」、「部署」、「氏名」、「カスタマバーコード」
名前：「氏(漢字)」、「名(漢字)」、「氏(読み)」、「名(読み)」

●外字の編集

データ表示エリアに読み込んだ「テブラ」PRO本体の外字データを編集するだけでなく、新たに外字を作成して「テブラ」PRO本体に転送することができます。

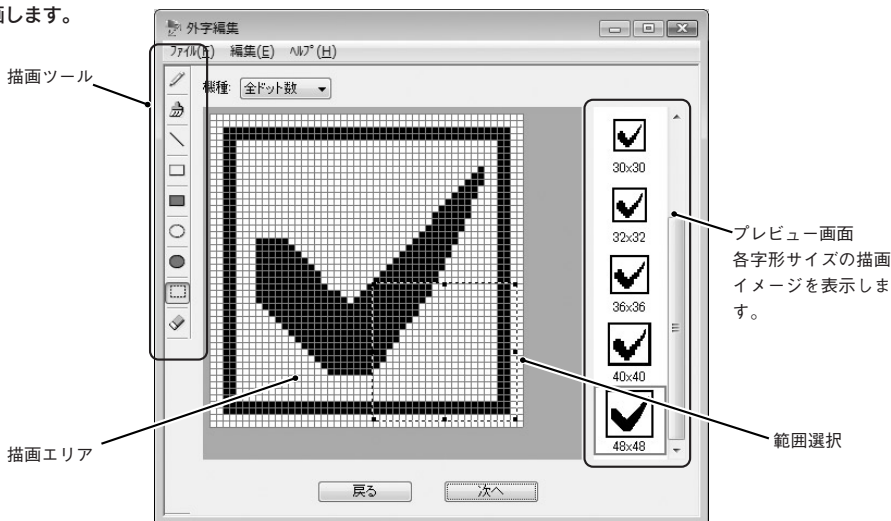
画面表示と描画方法

外字を編集するときは、1つの外字について、数段階の大きさの字形データを登録します。これは複数の文字サイズを美しく印刷するためです。登録する字形データの数には「テブラ」PRO本体の機種によって異なります。

描画方法

外字の編集は、方眼紙のマスを点(ドット)で埋める作業です。

画面左側の描画ツールから描画方法を選び、描画エリアのマスの上でマウスをクリックやドラッグして描画します。



描画ツール

	鉛筆	1ドットずつ描画します。
	ブラシ	太い幅で描画します。
	直線	直線を引きます。
	四角(外枠)	四角の枠を描画します。
	四角(塗りつぶし)	塗りつぶしの四角形を描画します。
	楕円(外枠)	楕円の枠を描画します。
	楕円(塗りつぶし)	塗りつぶしの楕円を描画します。
	範囲選択	描画エリアの一部を選択します。範囲選択後、範囲内をドラッグすると、その部分を移動することができます。
	消しゴム	塗りつぶした部分を消します。

新規に外字データを登録する

- 1 データ選択ボタンで【外字】をクリックする
【外字編集】ボタンが表示されます。

① クリック

【外字編集】ボタンが表示
されます



- 2 「テブラ」PRO本体のデータ、またはパソコンのデータを表示する
参照 図P.4 「「テブラ」PRO本体のデータを表示する」
参照 図P.5 「パソコンのデータを表示する」

- 3 新規に作成する外字のデータ番号を選択し、
【外字編集】をクリックする
外字編集画面が表示されます。

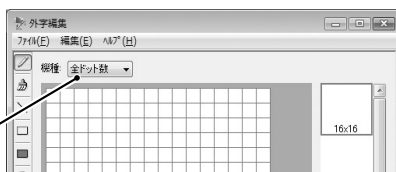
① クリック

② クリック



- 4 機種を選択する
接続している「テブラ」PRO本体、またはご使用
になる「テブラ」PRO本体を選択します。

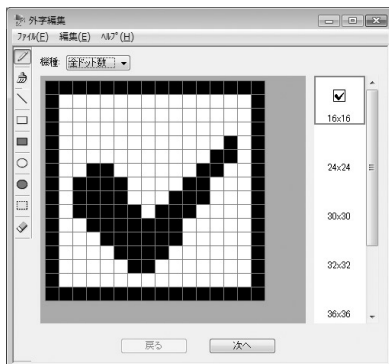
① クリック



次へ進みます

5 16×16ドットの字形パターンを編集する
描画ツールから描画方法を選び、描画エリアのマス目の上でマウスをクリックやドラッグして描画します。

6 [次へ] をクリックする
次のサイズの描画エリアが表示されます。
16ドットのデータをもとにパターンが自動的に拡大されます。

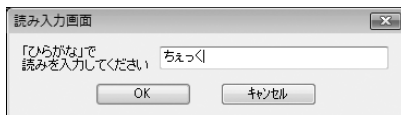


7 拡大されたデータを補正する
最後の字形サイズを補正して [次へ] をクリックすると、読み入力画面が表示されます。

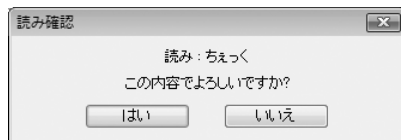
MEMO

機種により、必要となる字形サイズが異なります。複数の機種に転送したい場合は、「全ドット数」を選択してください。

8 外字の読みをひらがなで入力し、[OK] をクリックする
読みの確認画面が表示されます。



9 [はい] をクリックする
外字の編集を終了し、外字が登録されます。



!! 注意 !!

- データ表示エリアに読み込んだ「テブラ」PRO本体の外字データに直接登録する場合は、登録した時点で「テブラ」PRO本体のファイルに書き込まれます。パソコンにはデータとして保存されません。
- SR550、SR530、SR520、SR520Xには「読み」は転送されません。

10 作成した外字をクリックして確認する

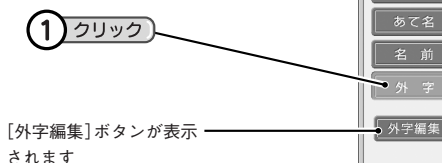
1 クリック

プレビューエリアにデータの内容が表示されます。



外字データを修正する

- 1 データ選択ボタンで【外字】をクリックする
【外字編集】ボタンが表示されます。

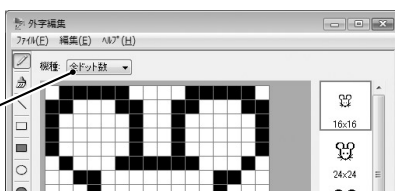


- 2 「テブラ」PRO本体のデータ、またはパソコンのデータを表示する
参照 図P.4 「「テブラ」PRO本体のデータを表示する」
参照 図P.5 「パソコンのデータを表示する」

- 3 新規に作成する外字のデータ番号を選択し、
【外字編集】をクリックする
外字編集画面が表示されます。



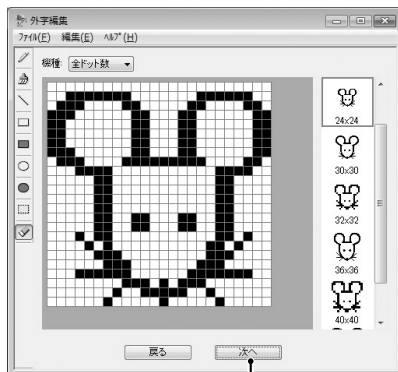
- 4 機種を選択する
接続している「テブラ」PRO本体、またはご使用
になる「テブラ」PRO本体を選択します。



次へ進みます

5 修正したい字形サイズを選ぶ

修正したい字形サイズが表示されるまで、[次へ] ボタンをクリックします。



6 外字のパターンを修正する

描画ツールから描画方法を選び、描画エリアのマス目上でマウスをクリックやドラッグして描画します。

7 他に修正する字形サイズを選ぶ

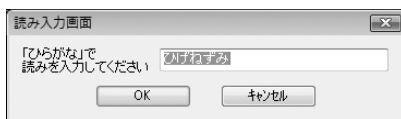
最後の字形サイズを修正して [次へ] をクリックすると、読み入力画面が表示されます。

MEMO

次の字形サイズがすでに登録されている場合は、[次へ] をクリックしても自動的に拡大されません。

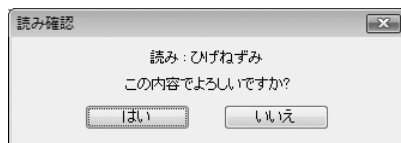
8 外字の読みをひらがなで入力し、[OK] をクリックする

読みの確認画面が表示されます。



9 [はい] をクリックする

外字の修正を反映し、外字が登録されます。



!! 注意 !!

- データ表示エリアに読み込んだ「テブラ」PRO本体の外字データを修正する場合は、登録した時点で「テブラ」PRO本体のファイルに書き込まれます。読み確認画面で[はい]をクリックすると、元データの復元はできませんので、充分に確認してください。
- SR550、SR530、SR520、SR520Xには「読み」は転送されません。